

鳥羽商船高等専門学校	開講年度	平成31年度(2019年度)	授業科目	海事輸送安全学(H31開講無し)
------------	------	----------------	------	------------------

科目基礎情報

科目番号	0082	科目区分	専門 / 選択
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2
開設学科	海事システム学専攻	対象学年	専1
開設期	前期	週時間数	2
教科書/教材	特に指定しない		
担当教員	専攻科 教員		

到達目標

国際物流を担う海上輸送の現状を把握するとともに、国内外の衝撃的な事故や災害の現状を把握し、安全管理について理解する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	日本の国際物流の現状について具体例を挙げて説明できる	日本の国際物流の現状について説明できる	日本の国際物流の現状について説明できない
評価項目2	海事輸送における事故や災害の現状、およびその原因・対策について具体例を挙げて説明できる	海事輸送における事故や災害の現状を説明できる	海事輸送における事故や災害の現状を説明できない
評価項目3	組織の安全管理について、具体例を挙げて説明できる	組織の安全管理を説明できる	組織の安全管理について説明できない

学科の到達目標項目との関係

教育方法等

概要	【海事 平成30年 1年・2年 春 開講】 海技士としての知識を有する者が、海運や国際物流の知識や理解を深め、今後の物流について予測する。 国際的な貨物輸送について理解し説明できるようになること目指す。
授業の進め方・方法	講義やディスカッションを中心に進めていく。
注意点	・時事の内容について質問するので、新聞、ニュース等で日ごろから情報を入手すること ・貨物がどのような手続きが行われ移動するかをイメージできるようになること

授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週 海上輸送の現状	海上輸送の概要を知る
		2週 運賃と外国為替	外国為替と運賃の関係を説明できる
		3週 貿易保険	貿易保険の概要を説明できる
		4週 日本の貿易の現状	日本の現状について説明できる
		5週 貿易と環境	環境保全と貿易の関係を理解する
		6週 労働安全と産業安全	労働安全について説明できる
		7週 企業経営と安全管理	災害コストや労災保険について説明できる
		8週 安全委員会(安全衛生委員会)	設置が必要な業種・規模を説明できる
	2ndQ	9週 安全教育の意義	安全教育について説明できる
		10週 安全点検と職場巡回	点検と職場巡回について説明できる
		11週 労働安全衛生マネジメントシステム	労働安全衛生マネジメントシステムについて説明できる
		12週 リスクアセスメント	リスクアセスメントをグループで実施し、リスク評価ができる
		13週 災害の真相把握	災害の原因メカニズムを説明できる
		14週 災害の分析	災害分析方法を説明できる
		15週 機械・設備要因による災害防止	機能の安全評価を説明できる
		16週 定期試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	4	
			情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。	4	
			国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。	4	
			知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。	4	
			知的財産の獲得などで必要な新規アイデアを生み出す技法などについて説明できる。	4	
			技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。	4	
			全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。	4	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	40	0	0	5	40	15	100

基礎的能力	30	0	0	5	30	15	80
専門的能力	10	0	0	0	10	0	20
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0